

2020
Vol.5

あおはにの風

特集

令和2年度事業計画方針

変化をとげる共に成長する場へ

新型コロナウイルス感染拡大から見る就労支援

地域に根差し、地域と共に

あおはにファーム通信2020春・夏

オンラインショッピングサイト

AO-HANI MADE

令和2年度

危機を超え、新たなニーズに対応できる 社会福祉法人を目指して

理事長

榎原 典俊



令和2年度は、世界に蔓延する新型コロナウイルスとの闘いの中で始まりました。有効ワクチンの完成は、いつを起点とするかは分かりませんが早くて約1年後とも言われています。我々が機能停止となることでの社会的影響を考えると、何としてもこのウイルス感染を避けなければなりません。人々の社会生活の困難時にこそ密接に、人々の社会生活を下支えするという福祉従事者としての使命での事業計画が必要となります。

これまで青葉仁会の障がい者支援は、彼らが「社会で普通に活躍できる」ことを基本方針としてきました。障害の多様性に応じた支援により社会参加を実現できるよう、そして個々の特性に対応できるよう、多種多様に※6次産業化を進めてきたところです。特に、農業（生産）や人々の食生活（加工）を対象とする就労支援事業は、今や地域のライフラインとして、人々の日常を維持する地域機能に深く組み込まれていると言っても過言ではありません。新型コロナウイルスの感染

防止を理由に、利用者の活動の遮断という一面的なやり方では、私たちが社会福祉法人としてこれ迄築き上げてきた「すこやか」・「いきいき」ネットワークという地域福祉の停止につながりかねません。人々の暮らしの質を可能なかぎり低下させないように配慮しながら、この緊急時にこそ、これまでのやり方に依存できない事実に対応する『新たな』スタイルでの運営を模索しながら進んでいます。

※6次産業化（ろくじさんぎょう）とは：例えば農業において、生産者（1次産業）が自身の生産物の加工（2次産業）と流通・販売（3次産業）も行い、多角経営を展開すること。

また、コロナウイルスによって変動する社会や経済、或いは国の対策や福祉施策、方針変更による事業の再編成が必要なものも想定し、非常時には融通性のある事業形態の整備が必要となります。よって、3密回避、あるいは自粛という「分離化」により、組織機能においては職員がディスタンス（距離）を増すのではなく、この非常事態という特別な

状況下での意思疎通と協調行動は普段より一層の重要性を増し、なによりも我々が困難を乗り越切るための【結束】と【知恵の共有】が求められます。【結束】とは、生産性を意識した行動により青葉仁会の業務遂行力を強化すること。【知恵の共有】は、困難に対抗する果敢な実践経験を基盤として、速やかに次の行動に生かし、問題解決に導くツールとすることです。

新たな福祉ニーズへの対応

社会生活全般に及ぶ急激な変化は既に「コロナ格差」や、「コロナ差別」と称される新たな社会問題を生じています。自粛という他者との関係をひかえる社会では、障がい者、或いは社会的弱者であっても自立は自己責任、とみられる風潮が高まり、さらなる困窮の連鎖に追い込まれ、生活困窮などの福祉問題につながるものが懸念されます。コロナ差別という新たな差別構造での精神的な抑圧

は、これまでも差別的な立場に置かれてきた人達にとって更なる不安を生じ、精神的な支援ニーズの増大につながるとも思われます。そのようなニーズの変化、あるいはその予防に対応できるように相談支援の充実や生活・就労支援体制の整備などの事業構築する必要があります。

不安を解消し、安心感のある支援と暮らしへ

新型コロナウイルスは人の心を根底からゆすぶり、「コロナ鬱」という新たな精神症状も問題になっています。青葉仁会にもこのような影響を受けやすい方々が多くおられ、コロナが引き起こす社会の変化は彼らの精神不安定の要素となっています。長引く生活制限や徐々に高まる感染へのストレスは、時に予測できない形で現れてきます。どのような状況であっても我々支援者は、常に施設利用者や社会の状況に合わせて変化することが

求められます。その意味で、感染予防対策の支援においては、生活、就労、余暇支援に至るまで、これまで通りのやり方では通用せず、通常とは次元の違う支援構築が必要です。よって新型コロナウィルス収束までの支援は、「変化に対応できる支援」の提供であって、普段の固定化された安定支援とは内容や意味合いを異にすることを基本にして構築してゆかねばなりません。

利用者も職員もコロナ禍では誰もが等しく、同じ不安や生活制限や自己規律の中にあります。目の前の不安は尽きないかも知れません。しかしコロナウィルス終息後には、この経験が持続可能な支援や共生社会の実現につながることを信じ、それを目指すことの中に現在の、そして未来への安心を見出すことこそが今、我々にできる最善のことであることに間違いはありません。

就労支援においては、 青葉仁会の就労移行支援を利用して一般企業に就労

された方々もおられますが、新型コロナウィルスによる経済状況の悪化により、その様な方の雇用の継続がこの先どうなるか非常に危惧されます。企業運営の縮小や停止、廃業は雇用を得ることが難しい障害のある方々にとってはより深刻な問題です。相談支援、就労移行支援においては、既に一般就労しておられる障害者雇用の状況把握にも留意する必要があります。

我々の就労活動も、市場ニーズの減少に大きな影響を受けているところでですが、新たな市場開拓は福祉だけの問題ではなく、一般の企業も経営持続をかけた業務転換や、新規事業への参入など再挑戦に挑んでいます。現取引先との連携を密にすることで新たな機会や商品の開発につながることも視野に入れ、企業とも協力し、新規事業を創出できる体制の構築が必要となります。社会的な変動が大きい時ほど所得保障が求められることは先に述べましたが、既に現在の就労継続支援は、仕事がない人に対するほど

こ似的なものではなく、

①社会参加できる励みのある仕事
②持続可能な質の良い就労環境
③豊かさ自立につながる高工資
であることが求められます。それは、権利宣言という合理的配慮という視点での支援基準が求められるところから、変化に対応できる就労支援現場の強化対策を講じることとします。

生活・地域支援では、 入所施設、グループホームなどでの集団感染発生を防ぐため、新型コロナウィルスが収束するまで気を緩めることのない支援が求められますが、利用者と支援者の双方に過剰な負担をかけない効果的で持続可能な支援体制の構築が必要です。感染防止対策を日常の暮らしの中で可能な限りシステム化し、外出時や外出後、また地域の感染状況に合わせた対策をマニュアル化し、その効果を検証しながら進めてゆかねばなりません。

また、コロナ禍では「コロナ孤児」と

という言葉も現れました。経済活動の急激な低下による生活苦や失業、家庭内での困窮と、そこから生じるショートステイのニーズが今急増しています。本年度3月、奈良市水間町に「日中サービス支援型」のグループホームも完成します。1階と2階に計20室、ショートステイ専用居室が5室付属整備されます。来年3月の開所に備えて準備を進めると共に、コロナ禍における社会ニーズも考慮しての取り組みも必要となっています。

新型コロナウイルスや災害のように社会が予想しなかったことが起こった場合、社会福祉法人は社会が求めるニーズに対し、最も必要な事を見つけ出し、新たな視点での事業展開と強化が求められます。社会のセーフティネットとしての法人のあり方、人々の幸いにつながる総合的な支援があつてこそ福祉法人への安心と期待となる事でしょう。

既に職員はそれぞれの施設や部署において、予想外の困難な状況にもかかわらず

積極的な取り組みを進めているところで、ここに挙げました方針においては、職員一同さらに一丸となって進めてまいります。今後ともご利用者様、ご家族様、行政、連携企業様、日頃よりご支援を頂いている皆さまのご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。また、事態の一刻も早い収束を願うと共に、皆様の安全と健康を心よりお祈り申し上げます。



変化をとげる 共に成長する場へ

萌あおはに 課長

田中 祐介

新型コロナウイルスが世界で猛威をふるい、オリンピック・パラリンピックの延期やさまざまなイベントの自粛や中止など、日本でもその影響は大きなものとなっていますが、青葉仁会（生活支援部）においても様々なことが変わりました。

入所施設「あおはにの家」・「萌あおはに」では、段階的な帰省の自粛や各種イベントの縮小を行いました。とりわけ帰省に関することは利用者さんにとって最大の関心ごとであり、いつ帰省ができるか分からない不安も大きなものとなっていました。「きょうの感染者数は●人やったで！」と連日の報道を食い入るようにご覧になり、感染者数の推移を報告してくれる方もおられ、中でも志村けんさんの報道は利用者さんにとっても衝撃で、

新型コロナウイルスの脅威をまざまざと実感させられました。

そんな中、生活支援部でも「あおはにの家」・「萌あおはに」の外出やゴールデンウィークのイベント開催が危ぶまれましたが、場所の変更や分散など3密に該当しないような工夫を担当スタッフが凝らして実施することができました。この期間に制作していた大絵巻図完成の音楽ライブは、雨天の場合にはオンライン配信の予定でしたが、良い天気恵まれ、

小舎間やステージとの物理的な距離こそありましたが、画面越しでは伝わらない迫力ある生の演奏を聴くことができました。グリーンウオークは残念ながら中止になりましたが、恒例のバーベキューはテラスにテーブルやイスを置いて召し上がったいただきました。お肉がおいしかったのはもちろんの事、ふだん室内で使用しているテーブルやイスを外に出して食べる非日常感が嬉しく、準備の段階からワクワクされていました。

日中作業班もフロア（ユニット）単位



となり、隣接するブルーベリー園の整備や絵画制作などの他に、健康的な体力づくりを目標にウォーキングを行っています。平時であれば1メートルをこえる大きなしゃもじを手に「プロセスフーズ班」にてタマネギをかき混ぜておられる方も、シャベルに持ち替えてブルーベリー畑に撒く堆肥を力グに移す作業などをしていました。慣れない作業だったと思

いますが、みなさん一生懸命に取り組まれています。

ある男性小舎では、これまで特に係を設けずに食事の配膳をしていたのですが、「手洗いなどがしっかりとできる方で配膳をするほうがいいのでは？」という意見が自治会（利用者さんを中心に月2回実施）であがり、配膳係を募ったところいつも1番遅く食事をとられているYさんが自ら立候補されました。大丈夫だろうか…？という気持ちと期待が半々でしたが、翌朝食事が到着する前にしっかりと待っておられ、準備を手伝ってくださいました。その後Yさんに立候補してくれた経緯を尋ねると「いつも準備をしていたS君が立候補をしなかったから、みんなが困ると思ったからやー」と、あたりまえの様子で教えてくれました。

多くの犠牲者と混乱をもたらしている新型コロナウイルスですが、限られた条件の中でいかに楽しんで頂くかという職員にとって大切なことを再認識し、利用者さんは以前よりも仲間の事を考えて行

動するきっかけとなっています。今日現在、緊急事態宣言は解除されていますが、引き続き感染予防に努め、この有事を利用者さんと共に成長する機会にしたいと思っています。





4月より感染症対策の為、入所の皆さんはステイホームならぬ『ステイフロア(居室棟)』で活動することが多くなりました。感染症対策で色々な制約がある中、フロアの仲間たちと取り組める活動として、大きな貼り絵制作を始めました。和紙を染め、その紙をちぎって、貼って…また染めて、ちぎって、貼って。おりがみも貼って。室内で過ごす時間がどうしても増えるので、貼り絵のモチーフはカラフルに躍動感のあるフォルムに、制作していてみんなが元気になれるようにしてみました。今だからこそできた作品です。 アート・クリエイト班主任 中谷 由香



新型コロナウイルス 感染拡大から見る 就労支援

いきいきネットワーク統括

デリカテッセンイーハートヴ所長

井西 正義

活性化が進んでいた就労支援の現場にも、新型コロナウイルス感染拡大は非常に大きな影響を及ぼしました。

日々拡大する感染、緊急事態宣言の発令、自粛による社会経済活動の縮小と、私たちが今までに経験したことのない事態は、青葉仁会や、全国の就労支援事業所を飲み込んでゆきました。

飲食サービスを提供する法人内の店舗は、利用者さまや職員への感染リスクを可能な限り無くするため全店休業となりました。また、食品や物品の製造部門では取引先の営業自粛やイベントの中止、全国的な需要の落ち込みで受注量が激減し、その日の作業を確保することもままならない状態になりました。当然、収



入も減少し利用者さんにお支払いする工賃の確保が困難な状態となりました。

一般的に、収入が減った（勤務時間が確保されない）労働者には休業補償等の雇用調整金が支給され雇用を守る仕組みがあります。一方、就労支援を利用する障害のある方々の場合、作業時間が少ないために工賃額が減ったとしても、そこへの補填はありません。これは雇用契約に基づく労働者と、福祉サービスを利用する利用者との違いで説明できるのですが、これまで就労支援を積

み重ねてきた当法人としては、工賃を減らすことは何としても避けたいと考えていました。

このような状況を少しでも打破しようと、各事業所からは強みを活かした様々な案が生まれ実行されました。「水間ワックス」では新たな瓶詰加工商品が企画され、「ポラーノ広場」では冷凍パンや宅配パン販売、「デリカテッセンイーハートヴ」からは常備食品シリーズや近隣への配食事業などが急ピッチで進められました。インターネットや関係の方々へのご案内を通じ、多くのご注文をいただいたことで、工賃を継続して支給できる状態へと近づくことができました。また、Withコロナの時代に対応する商品として、「どんぐり山猫工房」では飛沫防止仕子の製造、「あおはにファーム（自然学校）」では無農薬野菜の栽培量・種類の拡大といった、新たな商品も生まれています。このような状況においてご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。



ピクルスいろいろ



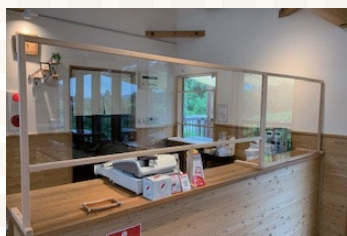
ビン詰めのジャムなど



冷凍パン



常温保存可能なレトルト常備食品



あおはにの店舗(レジ)用にオーダーサイズの飛沫感染防止パーテーションを製作。店の雰囲気を壊さぬよう馴染む色合いで仕上げました。営業が再開し、お客さまに安心して来て頂けるように。また現場の皆さんが安心して働けるように。微力ながらどんぐり山猫工房も協力させていただきました。大変な時期ですが、皆さんで力を合わせて乗り越えましょう！

飛沫感染防止
パーテーション
どんぐり山猫工房主任 豊住周輔

地域に根差し、地域と共に

地元自治会と協定締結

デリカテッセンイーハトーヴ 課長 平井納津与

8月12日、帝塚山(奈良市)南住宅自治会と青葉仁会のデリカテッセンイーハトーヴが、『災害時における食料品の供給に関する協定』を結びました。

この協定は、地域自治会との定期的な情報交換会の中で検討を重ね、実現することができました。毎年のように起こる自然災害が、またいつどこで起こるかわからない中、住民避難所で食料品調達が必要になった時に、お互いが協力し提供できる仕組みです。これは、当事業所が地域の方々に認められ、地域の中での大切な役割を担っているということだと思います。

そして、この協定により提供される食品を作り、事業を支えているのは、デリカテッセンイーハトーヴに通われている利用者の方々です。障害のある方々が、社会の中で役割を獲得するということ、それはとても大きな意義があることだと思います。

デリカテッセンイーハトーヴがある帝塚山地区は、高齢化が進んでいます。今後も、地域に根差した事業所として、当事業所が得意とする食品製造やレトルト製造の機能を生かし、地域のニーズに応え、そしてこの地域を支えていけるよう努めていきたいと思っています。



帝塚山南住宅自治会長様と





あおはにファームとは

あおはにファームは太安万侶ゆかりの地、大和青垣高原の標高500mに近い田原山里地区にあります。ここでは青葉仁会で活躍する障がいのある方々が日照りの夏、冬の寒さにも負けず8ヘクタールの農地でお米や野菜、果樹を育てています。

高齢・過疎化や耕作放棄地の増加などの農業問題はこの地区においても例外ではありません。食料問題や環境問題は人々が健康に生きる基本的な課題です。「農福連携」を通じて無農薬・有機肥料を主に手間暇をかけてより良い品質の農産物の育成と、多くの方々に楽しんで頂ける自然環境の維持にも努めています。

5月、コシヒカリ、アキツ穂、黒米の田植えからスタート。飛騨高山伝統のカボチャの定植、3種類のレタス、キャベツ、ブロッコリー、人参、赤大根、あやめ雪かぶの収穫。人参は葉付きで出荷するとお客様からとても喜ばれました。

6月、玉ねぎは「玉ねぎ引っこ抜き隊」を結成。雨の合間に利用者、スタッフ老若男女総動員で2トン収穫しました。玉ねぎと仲良く並んで成長したニンニク、新たに耕作した小麦は、黄金色に変身した実を収穫。このあと製粉して自家製パン、ケーキになります。じゃがいもは、雨に悩まされながら収穫。作業棟の屋根が改修されて広くなったので、干しやすくなりました。ディル、スイスチャード、ビートも新しく仲間入り。さつまいも(紅はるか)は昨年の2倍となる9,000本を定植、秋には人気の干し芋や焼き芋になります。

7月、今年の梅雨は長く続き、作業は予定通りに進まなかった為、毎日相談しながら現場へ出向きました。大量の雨は雑草の成長を助長し、圃場の草刈りに日々追われました。

そして8月、きゅうり、トマト(赤、黄、オレンジ)、ナス、ピーマン、インゲン豆、カボチャ、ラディッシュ、チューペティオ(ブラジル唐辛子)、ゴーヤ、グリーンリーフ等が収穫できました。そして、ブルーベリー園の開園です。十年前より継続している元茶畑のブルーベリー畑への転換を今年も進め、紫の実が鈴なりになっています。

これから秋、冬に向けても様々な野菜を栽培していきます。このあおはにファームで栽培した農作物は、あおはに各レストランで様々なメニューとして提供します。これからも、あおはにファームは利用者と共に皆様に喜んでいただける食材を提供できるよう、また、地域再生の一役を担えるように活動していきます。

オンラインショッピングサイト AO-HANI MADEでお買い物しませんか？

おいしい
たのしい
あったかい
常備品に
贈り物に

青葉仁会の「おいしい」「たのしい」「あったかい」がぎゅっと詰まったウェブショップAO-HANI MADEが登場しました。

旬のアイテム、お気に入りのグッズをいつでも、どこからでもご購入いただけます。お支払いには便利なクレジット決済がご利用いただけます。贈り物に、ステイホーム中の楽しみに、ご家庭での常備品として、ぜひご利用ください！

<https://aohani-made.shop>



「Hanako」でも紹介されています

Hanako2020年8月号
(発行マガジンハウス)
FocusPeopleFile#4
INFORMATION×
上野千津子さんの記事
(何を信じるか。



情報を正しく「取り寄せる」方法)で
「AO-HANI MADE」が紹介されました。

紹介ページ:

<https://magazineworld.jp/hanako/>

青葉仁会 オンラインショップ
AO-HANI MADE
オリジナル製品や取扱製品をご購入いただけます



おすすめ商品



編集後記
編集責任 榊原 安美

パンデミック、クラスター、ロックダウン、ステイホーム…等、今年はこれまであまり聞き慣れていなかったカタカナ語(英語)が多く登場しました。その中でも頻繁に使われているのが「Social Distance (ソーシャル・ディスタンス)」。「感染拡大を予防する新しい生活様式」として政府からも提案された「社会的距離の確保」を意味します。日本では定着したこの横文字が、北米などの英語圏では今、もうすでに消えようとしています。学校閉鎖や職場の休業による自宅待機、テレワーク、イベント自粛など、私たちが人と接する事が制限されている今、「社会」との「距離」という言葉の持つ意味合いが、人々に「分離や孤立」そしてさらには「孤独」という間違ったメッセージを送ってしまうという理由からです。故に、それに代わる言葉として「Physical Distance (フィジカル・ディスタンス)」を用いるように推奨されています。

「フィジカル」とは身体的、物理的という意味です。テクノロジーの進化により、私たちは比較的どこにいても、いつでも安易にそして即座に、人や地域や社会と、更にはグローバルに繋がる環境にあります。世界的な非常事態の中、新型ウィルスに一丸となって向き合う今、私たちはより密接に「団結」していることが求められています。青葉仁会においても、施設/事業所間の行き来や活動が制限されていますが、職員にはこれまで以上の「結束」と「知恵の共有」が事業方針にも組み込まれています(本誌P2)。

新型ウィルスによる打撃の大きさは計り知れませんが、今こそ「Build it Better」=「さらに良いものを築く」という意気込みで立ち向かっています。



建設中です

新規グループホーム
「はれやか」

青葉仁会としては10軒目のグループホームとなる日中サービス支援型ホームを奈良市水間町に建設中。完成は令和3年春を予定しています。二階建ての建物には20室の居室と、5室のショートステイ専用居室、計25室が整備されます。



完成予定図



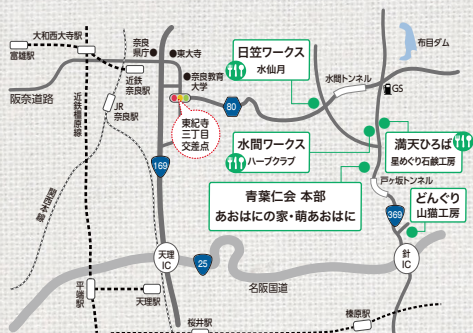
地鎮祭



社会福祉法人 青葉仁会

〒630-2152 奈良市杣ノ川町50番地の1 TEL.0742-81-0420 FAX.0742-81-0804
info@aohani.com http://www.aohani.org

奈良市東部エリア すこやかネットワーク



あおはにの家・萌あおはに

〒630-2152 奈良市杣ノ川町50番地の1
TEL.0742-81-0824 FAX.0742-81-0804

水間ワークス

〒630-2151 奈良市水間町3020-3
TEL.0742-81-0864 FAX.0742-81-0829

日笠ワークス

〒630-2173 奈良市日笠町396-2
TEL・FAX.0742-81-1071

満天ひろば

〒630-2151 奈良市水間町3031
TEL.0742-81-1310 FAX.0742-81-1311

どんぐり山猫工房

〒632-0113 奈良市都祁馬場町 716
TEL・FAX.0743-89-1808

奈良市西部エリア いきいきネットワーク



デリカテッセンイーハートヴ

〒630-0064 奈良市帝塚山南4丁目11-14
TEL.0742-95-7227 FAX.0742-95-7228

ボラーノ広場

〒631-0061 奈良市三雑町2146-2
TEL.0742-45-8700 FAX.0742-45-8701

生駒事業所

〒630-0243 生駒市俣口町2088
TEL.0743-73-8880 FAX.0743-73-5350

地域支援部

〒631-0064 奈良市帝塚山南4丁目11-10
TEL.0742-81-8877 FAX.0742-81-8660



青葉仁会の各事業所から主要駅まで送迎バスを運行しております。(乗車時間約30分)

JR・近鉄奈良駅、富雄駅、東生駒駅、生駒駅、高の原駅、新祝園、州見台方面、学研奈良登美ヶ丘駅
天理駅、榛原駅、桜井駅、大和小泉、法隆寺、王寺方面、忍ヶ丘、住道、四條畷方面